

追悼のことば

先の大戦が終わりを告げてから 81 年の歳月が過ぎました。

本日ここに戦没者を追悼し平和を祈念する日の行事が厳粛に執り行われるにあたり、戦没者の皆様の御霊の前に、謹んで追悼のことばを捧げます。

過酷で厳しい戦いの中で、ふるさとから遠く離れた幾多の戦地において、祖国の安泰と家族の幸せを願いつつ、多くの尊い命が無念のうちに失われ、国内においても空襲などにより、多くの方々が戦禍の犠牲となりました。

今こうして諸霊を前にし、心からご冥福をお祈り申し上げます。

また、ご遺族の皆様におかれましては、最愛の肉親を失われた深い悲しみを胸に、幾多の困難を乗り越えてこられたことと存じます。その計り知れないご労苦に対し、深甚なる敬意を表します。

あれから今日にいたるまで、わが国は直接、戦火を体験することなく、平和と繁栄を享受してまいりました。市長として、皆様とともに、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願っております。

明石市におきましては、昭和 35 年に「核非武装都市宣言」を行い、平成 23 年には核廃絶を訴える「平和首長会議」に加盟しました。また、「一般財団法人太平洋戦全国空爆犠牲者慰霊協会」の理事として、全国に向けて戦争の悲惨さと平和の尊さを発信するなど、記憶を風化させることなく、次の世代に語り継いでいく取り組みを進めているところでございます。

私たちは、今日享受する平和と繁栄が、多くの尊い犠牲のうえにありますことを決して忘れることなく、だれもが安全安心に暮らせる社会を実現していくことこそ、平和を願い続けてこられた先人たちのご遺志であり、我々に課せられた責務であると考えています。今後も、市民の皆様が安全で安心して暮らし続けられるよう、誠心誠意取り組んでまいりますことを、固くお誓い申し上げます。

ここに謹んで御霊のご冥福をお祈り申し上げ、郷土の繁栄と市民の平安にご加護を賜らんことを願い、あわせて、ご参列の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げまして、追悼のことばとさせていただきます。

令和 8 年 8 月 15 日

明石市長 丸谷 聡子